



主な展示製品

- ゲート型強磁性体検知器「フェルアラートII」
- 放射線医薬品の放射能測定器「ドーズキャリブレーションATOMLAB500」
- MRI用アクセサリ「MRI用車イス」「MRI用可動イス」
- PET周辺機器「SKKテーブルトップシールド」

テーマ 医療放射線安全管理へのさらなる貢献

放射線検査の安全管理業務において長い歴史を誇る産業科学は、2016 ITEMにおいても医療施設の放射線検査室における「安全」に関わる製品を展示した。とみに当該分野への関心が高まっている今、足を止め展示の説明を聞く来場者が多かったことが印象的であった。

ゲート型強磁性体検知器 「フェルアラートII」

MRI検査の有用性が高まる一方、MRI自体の高磁場化も進み、ますます磁性体吸着事故対策が急務となっている中、来場者から注目を集めていたのが「フェルアラートII(米国KOPP Development社製)」である。同検知器は金属検知器では不可能であった強磁性体のみを検知可能であり、ヘアピンのような小さなものにも対応する。ゲート状の同検知器をMRI検査室の入り口に設置することで、強磁性体の持ち込みをアラーム音とライトで警告する。なお、検知領域が18カ所に区分されているために瞬時に強磁性体の位置を特定する。感度およびアラーム音は調節可能。また検知器からは一切の電波や磁場を発生させないので、他の医療機器に対しても安全である。なお、姉妹機としてポール型の「フェルアラート・ソロ」があり、専用自立スタンドによって設置場所を選ばず自由に使用できる。



フェルアラートII

ドーズキャリブレーション 「ATOMLAB500」

RI検査関連製品としては、放射性医薬品の放射能測定を行うための機器「ドーズキャリブレーションATOMLAB(アトムラボ)500」が展示され、核医学関係者からの注目を集めた。最も厳しい規定をクリアする性能を有し、放射性核種の放射能をスピーディかつ正確に測定できる。大画面カラータッチパネル式ディスプレイにより操作性を大きく高めている。自動レンジ切換機能を持ち、使用頻度が高い88個の放射性核種がプログラム済み。ラベル印刷も可能である。なお、同機器とウエル型シンチレーション測定器「ATOMLABワイブテストカウンター」を統合した放射能測定システム「ATOMLAB500 Plus」もある。



ATOMLAB500 Plus(左側手前がワイブテストカウンター)

MRI用アクセサリ 「MRI用車イス/可動イス」

前掲の「フェルアラートII」同様にMRI検査室での安全管理対策機器として関心を集めていたのが「MRI用車イス」であった。パーツはすべて樹脂製で、クッションおよび背あての部分は着座感に優れるウレタンフォームを使用している。強磁性体検知器、金属探知器にも検知されないため、より正確なスクリーニングが可能となる。「MRI用可動イス」は、全プラスチック製で、取り外し可能な肘あてやポリウレタン製のクッションが付く。下部にキャスターがつき、被検者を座らせたまま移動可能だ。



MRI用車イス



MRI用可動イス